

甲府市上下水道事業経営戦略 第2次戦略推進計画（水道事業）事業評価総括表
（5つの経営方針のもと、13施策、33事業） 対象：2019年度（令和元年度）

経営方針	施策	事業番号	事業名	担当課	事業評価	施策総合評価
1 安全でおいしい水道（安全）	(1) 水源保全の推進	1	こうふ水源の森整備事業	水保全課	C-	C
		2	水源保全活動推進事業 ※	水保全課	C-	
		3	水源保護地域水質汚濁防止事業	水保全課	B	
	(2) 水質管理の充実	4	水源域の水質調査事業 ※	浄水課	B	B
		5	水質検査事業 ※	浄水課	B	
	(3) 給水装置等の安全管理の推進	6	貯水槽水道管理指導事業※	給排水課	B	B
		7	直結給水方式拡大事業	給排水課	B	
2 災害に強くしなやかな水道（強靱）	(1) 危機管理対策の強化	8	総合的危機管理対策の強化	全課（総務）	B	B
		9	浄水場等業務継続システム高度化事業	浄水課	F	
		10	庁舎等施設浸水対策事業	総務課 浄水課	B	
	(2) 管路・施設の更新及び耐震化の推進	11	水道管路耐震化事業 ※	水道課	B	B
		12	浄水施設等更新事業 ※	浄水課	B	
		13	配水施設等更新事業	水道課	B	
		14	本局の庁舎改修事業	総務課	B	
3 将来に繋げる水道（持続）	(1) 経営基盤の強化	15	企業債の適正発行と資金調達手法の検討	経営企画課	B	B
		16	水道料金の収納率向上、滞納整理の強化	営業課	B	
		17	民間活力の活用推進（営業部門）	営業課	B	
		18	民間活力の活用推進（浄水場運転管理等）	浄水課	B	
		19	適正な水道料金の継続的な検討	経営企画課	B	
		20	給水台帳システムの整備	給排水課	B	
		21	上下水道事業アセットマネジメントシステム構築と運用	計画課	B	
		22	効率的な事務の推進	全課（総務）	B	
	(2) 広域連携の推進	23	水道事業広域連携の推進	経営企画課	C-	C
	(3) 有収率の向上	24	鉛製給水管対策事業 ※	水道課 給排水課	C+	B
		25	漏水防止対策事業	水道課	B	
(4) 技術・経営ノウハウの継承	26	人材育成、技術・経営ノウハウの継承	総務課	B	B	
4 お客様満足度の高い水道（信頼）	(1) 親しみやすく、わかりやすい情報の提供	27	戦略的PR活動の展開	経営企画課	B	B
		28	情報共有、協働による相互理解を深めた事業運営（広報等）	経営企画課	B	
		29	水質検査情報の公表	浄水課	B	
	(2) お客様の利便性の向上	30	顧客満足度向上事業	営業課	B	B
5 環境に配慮した水道（環境）	(1) 環境保全への貢献	31	環境・エネルギー利活用事業（本庁舎）	総務課	B	B
		32	水道施設を利用した再生可能エネルギー利活用事業	計画課 浄水課	C+	
	(2) 効率的な水運用	33	効率的な水運用の推進	計画課 水道課 浄水課	B	B

※第六次甲府市総合計画の実施計画事業

事業評価	A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了
施策総合評価	A：大きな効果を挙げている、B：効果を挙げている、C：あまり効果を挙げられていない、D：効果が挙げられていない 事業評価と重要業務指標（KPI）の状況を勘案し、総合的に評価

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号1 こうふ水源の森整備事業

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	水保全課		担当課長	望月 孔明				
経営方針	1 安全でおいしい水道（安全）		施策	（1）水源保全の推進				
目的	甲府市の水道に係る水源保護地域内の民有林の水源かん養機能の向上を図るため、「新21世紀水源保全計画」に基づいて、同地域内の民有林を対象として、民有林の整備促進を図ります。							
事業の概要	水源保護地域における民有林を対象に植樹及び保育への補助金を交付するとともに、国が創設を予定している森林環境税の制度内容を踏まえ、本市における効果的な補助金交付制度について検討します。 また、民有林を借り受けて市民と協働で活用するなど、水源保全に対する意識の醸成に努めます。							
現状と課題	森林整備事業補助金の交付については、山梨県による査定結果に基づき、上乗せ補助金を交付しています。 関係する機関や部局と連携し、森林の所有者の事業への理解を得る中で対象範囲を拡大する必要があります。また、国が施行を予定している森林環境税の制度を踏まえ、水源保護地域における森林整備の促進を図る必要があります。							
事業計画	名称	年度		2019	2020	2021		
		説明						
	民有林の整備促進	森林整備補助金の交付と補助金交付制度の検討						
	民有林の活用	民有林の借受予定地などの調査検討						
業務指標	名称	目標値に対する取組状況等		目標値	106	200	200	
	補助金交付額 （千円）	実績	林政課を通じて森林組合等に事業推進の依頼をしたが、所有者との合意形成が図れなかったため実績は無かった。		実績	—	実績評価 （担当）	T1
					2018年度末 実績（参考）	—		
	名称	目標値に対する取組等		目標値	3.0	5.0	5.0	
	民有林整備面積 （ha）	実績	林政課を通じて森林組合等に事業推進の依頼をしたが、所有者との合意形成が図れなかったため実績は無かった。		実績	—	実績評価 （担当）	T1
					2018年度末 実績（参考）	—		
事業費予算額（千円）				106				
事業費決算額（千円）				—				
事業評価（担当）					C-			
取組状況及び今後の展開 （担当）	平成31年4月、市林政課は、森林環境譲与税を活用した森林経営管理制度を開始し森林所有者の意向調査に着手した。今後、林政課と連携するなかで、この制度を活用しながら民有林の整備促進を図る。							
事業評価（推進委員会）					C-			
推進委員会の意見等	森林経営管理制度により森林所有者の意向を的確に把握する中で、民有林の整備促進など適切な森林管理に努めること。							

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号2 水源保全活動推進事業（第六次甲府市総合計画実施計画 事業番号 上下-1）

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	水保全課		担当課長	望月 孔明		
経営方針	1 安全でおいしい水道（安全）		施策	（1）水源保全の推進		
目的	水源保全の活動推進と意識啓発を図るため、「新21世紀水源保全計画」に基づき、市民や各種団体などとの協働による水源保全活動を実施します。					
事業概要	水源保全の必要性などを情報発信するとともに、市民、各種団体、企業などとの協働により、水源林植樹の集い、水源観察会、水道水源地クリーン作戦などを実施します。					
現状と課題	水源保全に対する市民意識の醸成に向け、水源林植樹の集い（年1回）、荒川源流における野鳥及び水生生物の水源観察会（年2回）、水道水源地クリーン作戦（年2回）を実施しています。 甲府市、上下水道局などによる啓発を継続的に行い、水源保全活動への参加を促進するとともに、市民や各種団体などによる自主的な活動が行われるよう事業を推進する必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021
	水源林植樹の集いの実施	市民、各種団体などとの水源林内での植樹				
	水源観察会の実施	親子を対象とした水源林内での荒川流域の水源観察				
	水道水源地クリーン作戦の実施	市民、各種団体などとの水源保護地域内での清掃活動				
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	5	5	5
	水源保全活動実施回数（回）	実績	6月の水源林植樹、7月の水源観察会（水生生物）の2回は実施したが、水源観察会（野鳥）と2回のクリーン作戦は荒天のため中止となった。	2	実績評価（担当）	T1
			2018年度末実績（参考）	5		
	名称	目標値に対する取組等	目標値	750	750	750
水源保全活動参加者数（人） ※重要業務指標	実績	水源林植樹391名/予定433名、水源観察会85名/予定40名。上記のとおり3つの活動の中止に伴い参加者数は大幅減となった。	実績	476	実績評価（担当）	T2
			2018年度末実績（参考）	736		
事業費予算額（千円）				2,192		
事業費決算額（千円）				1,310		
事業評価（担当）					C-	
取組状況及び今後の展開（担当）	荒天の影響を受け5つの活動のうち2つの活動しか実施できなかった。可能な限り、荒天時における予備日の設定や代替事業の検討を行う。					
事業評価（推進委員会）					C-	
推進委員会の意見等	荒天によるイベント中止は、やむを得ない。令和2年度においては、天候のみならず新型コロナウイルスの状況にも注視し、参加者の安全管理を最優先に事業実施すること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号3 水源保護地域水質汚濁防止事業

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	水保全課	担当課長	望月 孔明			
経営方針	1 安全でおいしい水道（安全）	施策	（1）水源保全の推進			
目的	甲府市の水道に係る水源保護地域における水質汚濁の防止のため、浄化槽の設置及び適正な維持管理を促進し、生活排水による水道原水の汚濁防止を図ります。					
事業概要	水源保護地域内において、浄化槽の設置費、維持管理費及び使用料などを補助することによって浄化槽の適正管理を促進し、水質の汚濁を防止します。					
現状と課題	「水源保護地域における浄化槽の設置及び維持管理に関する補助金交付要綱」に基づいて事業を実施しています。 平成30（2018）年度現在の浄化槽設置率は86.6%であり、また、設置後の経過年数が長期化している設備もあるため、浄化槽の設置及び適正な維持管理を促進する必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021
	浄化槽の適正管理の促進	浄化槽に係る補助金の交付と交付申請者の適正管理の促進				
	浄化槽設置率の向上	水源保護地域内の浄化槽設置率向上対策の検討及び実施				
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	196	196	196
	浄化槽の維持管理補助件数（件）	実績	実績	194	実績評価（担当）	T4
			2018年度末実績（参考）	199		
	名称	目標値に対する取組等	目標値	100	100	100
	補助対象浄化槽の適正管理割合（%）	実績	実績	100	実績評価（担当）	T4
			2018年度末実績（参考）	92.50		
	名称	目標値に対する取組等	目標値	86.60	86.60	86.60
浄化槽設置率（%）	実績	実績	85.76	実績評価（担当）	T4	
		2018年度末実績（参考）	86.60			
事業費予算額（千円）				7,000		
事業費決算額（千円）				4,685		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	設置への協力依頼と維持管理費補助金の交付を継続することにより水源保護地域における浄化槽の適正な維持管理を促進し、生活排水による水道原水の汚濁防止を図る。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	引続き水源保全への理解を求めるとともに、浄化槽使用者には、補助金の交付により適正な維持管理を促進し、生活排水による水質汚濁防止を図ること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号4 水源域の水質調査事業（第六次甲府市総合計画実施計画 事業番号 上下-2） 対象：2019年度（令和元年度）

担当課	浄水課		担当課長	石川 泰明		
経営方針	1 安全でおいしい水道（安全）		施策	（2）水質管理の充実		
目的	荒川上流域表流水及び昭和、中道系地下水の水質変動を把握するため、水源域の水質調査を実施します。					
事業概要	荒川ダム富栄養化及び荒川上流域表流水の経年変化や、水質変動状況を把握するための水質調査を実施します。 荒川上流域水源かん養林については、甲府市・山梨大学連携事業による研究の基礎データを基に、現状把握及び分析を行います。 昭和、中道系の盆地地下水については、量・質からみた地下水の実態調査、流動の把握、賦存量の調査研究を実施します。					
現状と課題	水源水質については、荒川上流域表流水及び昭和、中道系地下水の水質検査を行う中でその変化を監視しており、安全で清浄な原水が確保されています。 水源保護地域内の水源かん養能力、及び盆地地下水の賦存量などについても山梨大学連携事業により調査・研究を行っており、大きな変化が見られず良好であることを把握しています。 水源域の水質変動を的確に把握するためには、一定期間の水質データの収集が必要であり、継続して水質調査を実施する必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021
	荒川上流域水質調査	4地点×12回 2地点×4回				
	昭和及び中道地下水水質調査	昭和20箇所 中道5箇所				
	山梨大学連携事業による水源域の実態把握	荒川上流調査×2回 ダム調査3箇所×2回				
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	89	89	89
	水源水質調査回数（件）	実績 実績 荒川上流域水質調査：56件 昭和及び中道地下水水質調査：25件 山梨大学連携事業調査：8件	実績	89	実績評価（担当）	T4
			2018年度末実績（参考）		91	
事業費予算額（千円）				5,023		
事業費決算額（千円）				4,378		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	荒川上流調査については、自己検査範囲を拡大し、緊急時の対応や必要時の調査確認を行い適切に実施していく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	水源域の水質変動を正しく把握するため、継続して水質調査を行うこと。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号5 水質検査事業（第六次甲府市総合計画実施計画
事業番号 上下-3）

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	浄水課	担当課長	石川 泰明			
経営方針	1 安全でおいしい水道（安全）	施策	（2）水質管理の充実			
目的	安全で信頼される水道水を供給するため、計画的な検査装置の更新、導入及び技術継承により自己検査体制を整備し、「水道GLP」認定取得により確立した信頼性保証体制を適切に運用することで、高精度で信頼性の高い水質検査を実施します。					
事業概要	自己検査体制の充実のために検査装置等の整備を行います。検査技術等に係る教育訓練や精度管理を行い検査技術能力の向上、確実な技術継承に取り組み、水道GLPに準拠した品質管理システムの適切な運用を行います。					
現状と課題	水質検査装置の計画的な更新や、保守管理と精度管理及び教育訓練を実施し、精度の高い水質検査に努めています。水質検査の信頼性を確保するために、水道GLPの認定を継続して取得していく必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021
	水質検査の実施	水質検査計画の策定及び検査の実施				
	教育訓練等の実施	精度管理（外部2回、内部22回）、教育訓練（32回）				
	信頼性保証体制の充実（GLP認定）	水道GLPの運用による、水質検査の信頼性確保				
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	12	12	12
	定期水質検査の実施（回）	実績	水質検査計画の策定及び検査の実施	実績	12	実績評価（担当） T4
				2018年度末実績（参考）	12	
	名称	目標値に対する取組等	目標値	57	56	57
	教育訓練等回数（件）	実績	水道GLP更新審査 精度管理（外部2回、内部21回） 教育訓練（33回）	実績	57	実績評価（担当） T4
				2018年度末実績（参考）	56	
名称	目標値に対する取組等	目標値	100	100	100	
水質検査結果信頼性（%）	実績	水道GLP更新審査により信頼性保証体制が適切に運用していることが証明され、認定が更新された。	実績	100	実績評価（担当） T4	
			2018年度末実績（参考）	100		
事業費予算額（千円）			11,466			
事業費決算額（千円）			10,832			
事業評価（担当）				B		
取組状況及び今後の展開（担当）	水質検査結果の信頼性を確保するために、水質検査機器の更新、保守管理等を適切に行うとともに、検査技術の向上に努める。					
事業評価（推進委員会）				B		
推進委員会の意見等	安全で信頼される水道水を供給するため、信頼性保証体制を適切に運用するとともに、検査機器の更新、保守管理を行い、高精度で信頼性の高い水質検査を継続して行うこと。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満
事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号 6 貯水槽水道管理指導事業（第六次甲府市総合計画実施計画 事業番号 上下-4）

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	給排水課		担当課長	遠藤 博臣		
経営方針	安全でおいしい水道（安全）		施策	（3）給水装置等安全管理の推進		
目的	貯水槽水道の設置者に対し、適正管理（法定検査受検、受水槽清掃）の実施について管理指導を行い、お客様に安全でおいしい水道水の供給を図ります。					
事業概要	簡易専用水道の全設置者に対し、水道法に基づく法定検査の受検を促す内容の通知を送付するとともに、前年度未受検の設置者に対し直接訪問指導を行い、法定検査の必要性や重要性について周知・指導を実施します。また、小規模貯水槽水道の全設置者に対し、給水条例等に基づく受水槽の清掃などの適正管理を促す内容の通知を送付します。					
現状と課題	簡易専用水道においては、法定検査未受検の設置者に直接訪問指導を行っていますが、法定検査等の必要性について理解が得られない設置者もいます。引き続き直接訪問指導を粘り強く行い、安全でおいしい水道水を供給するために法定検査の重要性について指導を行います。また、小規模貯水槽水道については、報告義務がないため貯水槽の清掃等について、設置者に更なる啓発活動を行います。					
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021
	簡易専用水道の啓発活動の積極的な実施	簡易専用水道の法定検査受検の実施について、周知・指導の実施				
	小規模貯水槽水道の啓発活動の積極的な実施	小規模貯水槽水道の清掃等の必要性について啓発活動の実施				
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	96.00	96.50	97.00
	貯水槽水道指導率（％） ※重要業務指標	実績	簡易専用水道495施設、小規模貯水槽水道1967施設すべての設置者等に対し、清掃と法定検査受検の通知文を送付し指導を行った。簡易専用水道の指導率は100%であるが、小規模貯水槽水道の指導率は98%であった。	実績	98.21	実績評価（担当） T4
			2018年度末実績（参考）	96.39		
	名称	目標値に対する取組等	目標値	54	57	50
	簡易専用水道の法定検査未受検施設の訪問件数（件）	実績	令和元年度末の未受検54施設のうち52施設の設置者等に個別訪問を行い、口頭指導を行った。2施設については、令和元年度に廃止。	実績	52	実績評価（担当） T4
			2018年度末実績（参考）	67		
名称	目標値に対する取組等	目標値	88.00	89.00	90.00	
簡易専用水道の全体の受検率（％）	実績	簡易専用水道の適正管理については、個別への通知文の見直しを行うとともに、甲府市の広報にも掲載し啓発を行った。簡易専用水道495施設のうち、418施設において法定検査を実施した。	実績	84.44	実績評価（担当） T4	
		2018年度末実績（参考）	89.16			
事業費予算額（千円）				239		
事業費決算額（千円）				239		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	貯水槽水道の指導及び簡易専用水道の未受検施設の設置者に対し、直接訪問指導を行った。今後も引き続き個別指導を行い、適正な管理を促していく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	貯水槽水道は、施設の管理状況により汚染が拡大することが懸念される。施設管理については、設置者等が自ら行うべきものであるが、水道事業者においても引き続き啓発・指導を行っていくこと。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号7 直結給水方式拡大事業

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	給排水課	担当課長	遠藤 博臣				
経営方針	安全でおいしい水道（安全）	施策	（3）給水装置等安全管理の推進				
目的	直結給水方式の拡大により、受水槽で発生しやすい水質劣化の問題が解消され安全でおいしい水道水の供給を図ります。						
事業概要	3階直結直圧式給水に加え、4階以上の中高層建築物への直結増圧式給水の採用により直結給水方式の拡大を推進します。						
現状と課題	直結増圧式給水はこれまで採用していませんでしたが、これまでの経年管路の更新等により管路の配水能力は年々向上しています。また、増圧ポンプの性能向上により他事業体においても直結増圧式給水が積極的に進められています。こうしたことから現況管網の評価、他事業体での導入事例などを検証する中で直結増圧式給水を導入し、直結給水方式の拡大を図ります。						
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021	
	他事業体実施状況調査研究	他事業体の実施状況を調査や要綱等の整備を行い採用を図っていく。					
	要綱、施行指針等の整備						
	直結増圧式給水の採用						
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	-	2	2	
	採用件数（件）	実績	直結増圧式給水検討委員会及びワーキンググループ会議を開催するなかで、直結増圧式給水の条件設定を行い給水装置工事施行指針の整備を行った。また、来年度試行する施設の設定も行った。	実績	-	実績評価（担当）	T4
			2018年度末実績（参考）	-			
	名称	目標値に対する取組等	目標値	-	100	100	
	採用率（%）	実績	-	実績	-	実績評価（担当）	
			2018年度末実績（参考）	-			
事業費予算額（千円）				15,000			
事業費決算額（千円）				3,729			
事業評価（担当）					B		
取組状況及び今後の展開（担当）	直結増圧式給水の認可設定条件を記載した給水装置工事施行指針が完成し、ホームページに掲載しPRを図った。今後は、三階直結給水はじめ中高層ビル等への安全でおいしい水道水の供給を図っていく。						
事業評価（推進委員会）					B		
推進委員会の意見等	安全でおいしい水道水の供給に向けた更なる取り組みを進めること。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

担当課	全課（総務課）		担当課長	功刀 辰也		
経営方針	2災害に強くしなやかな水道（強靱）		施策	（1）危機管理対策の強化		
目的	日常の施設事故から大規模自然災害等の発生時に想定されるあらゆる危害への対策を講じるため、総合的な危機管理対策の強化を図ります。					
事業概要	「危機管理指針」やマニュアル等については、「甲府市地域防災計画」等との整合を図る中で、想定される危害に対する個別対応マニュアル等の策定・見直し、応急給水資機材等の充実、実践的な災害対応訓練を実施します。					
現状と課題	2018年度、地震災害時における甲府市水道事業遂行のための基本的な指針となる「甲府市水道事業業務継続計画（BCP）」（地震編）を策定しました。また、計画の中には、山梨県、甲府市、日本水道協会及び関係団体などと連携する受援体制についても組み入れました。この計画が有効に活用されるためには、被災の状況に応じた実践的かつ効果的な災害対応訓練等を行うとともに、応急水道資器材等の計画的な整備を進めていくことが重要です。					
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021
	災害対応訓練	実践的かつ効果的な訓練の実施				
	計画・マニュアル等随時見直し	必要に応じ随時見直し				
	応急水道資機材等整備	災害時に必要な応急資機材の計画的整備				
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	8	8	9
	災害対策訓練実施回数（回） ※重要業務指標	実績 ①平瀬浄水場異臭対策訓練（4月） ②平瀬浄水場臭気試験訓練（6月） ③平瀬浄水場平瀬薬品注入訓練（9月） ④平瀬浄水場油除去訓練（10月） ⑤サイバーテロ対策連絡協議会年次会議机上訓練（10月） ⑥日本水道協会関東地方支部南関東ブロック合同防災訓練（10月、11月） ⑦甲府市総合防災訓練（11月） ⑧日本水道協会関東地方支部情報伝達訓練（1月） ⑨平瀬浄水場防火訓練（1月） ⑩重要インフラ事業者サイバー攻撃対処訓練（2月） ⑪甲府市上下水道局緊急参集訓練（2月）	実績	11	実績評価（担当）	T5
事業費予算額（千円）				24,539		
事業費決算額（千円）				6,283		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	引き続き、災害対策訓練等を実施し、総合的な危機管理対策の強化に努める。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	危機管理対策の強化については、局全体で取り組む必要がある。各種訓練を実施し、訓練での気づき等をBCPなどの各種マニュアル等へ反映させ、実効性を高めていくこと。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号9 浄水場等業務継続システム高度化事業

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	浄水課	担当課長	石川 泰明			
経営方針	2災害に強くしなやかな水道（強靱）	施策	（1）危機管理対策の強化			
目的	平瀬浄水場、昭和浄水場及び各配水施設等における事故や大規模自然災害、テロ等の非常事態発生時に迅速かつ的確に対応するため、施設情報の電子化（浄水場等業務継続システムの高度化）を行い管理することにより、被害状況に応じ適切な施設の運転管理方法等を導き出し業務を継続する仕組みを構築します。					
事業概要	平瀬浄水場、昭和浄水場及び各配水施設等のデータを電子化し、緊急時の必要情報の検索や対応手順の検索ができる業務継続システムとして運用します。					
現状と課題	平瀬浄水場、昭和浄水場及び各配水施設等の運転管理を継続させるため、2015年度から進めてきた平瀬浄水場、昭和浄水場及び各配水施設等の施設情報について電子化が完了し、業務継続システムの基礎データとして運用します。また、昭和浄水場と各配水池において、重大事故として想定される事案についての対応フローを作成する必要があります。					
事業計画	名称	年度	2019	2020	2021	
	説明	説明	2019	2020	2021	
	浄水場等業務継続システム高度化事業	昭和浄水場において重大事故として想定される対応フローの作成				
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	100	-	-
	業務進捗度（%）	実績	実績	100	実績評価（担当）	T4
		昭和浄水場の危機管理理想対策業務において異常時対応フローの作成を行った。	2018年度末実績（参考）	100		
事業費予算額（千円）			1,980			
事業費決算額（千円）			1,760			
事業評価（担当）				F		
取組状況及び今後の展開（担当）	今回の昭和浄水場における異常時対応フローを用いて、平時から業務継続についての行動計画を準備する。					
事業評価（推進委員会）				F		
推進委員会の意見等	作成した対応フローを甲府市上下水道施設設備管理システムに組み込み、日常業務や危機管理理想業務に運用していくこと。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号10 庁舎等施設浸水対策事業

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	総務課・浄水課		担当課長	功刀 辰也・石川 泰明		
経営方針	2災害に強くしなやかな水道（強靱）		施策	（1）危機管理対策の強化		
目的	大雨による浸水被害で浄水施設及び配水施設で機能不全が起こり、水道水の供給がストップすることのないよう必要な措置を講じます。また、併せて業務の拠点となる上下水道局本局の庁舎（以下「本局の庁舎」という。）において浸水により、防災対策業務に支障が出ないように必要な措置を講じます。					
事業概要	平瀬浄水場、昭和浄水場、配水池及び本局の庁舎の浸水危険箇所の調査及び浸水対策工事等を行います。					
現状と課題	本局の庁舎及び昭和浄水場は、浸水被害の恐れがある地域にあります。特に本局の庁舎は、周辺道路が短時間の集中豪雨で車両の通行が困難となるほど冠水することから敷地内の浸水を防ぐ対策を早急に講じる必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021
	本局の庁舎浸水対策事業	浸水箇所の調査及び工事等		[進捗バー]		
	浄水場等浸水対策事業	浸水箇所の調査・計画		[進捗バー]		
		浸水箇所の設計・工事等		[進捗バー]		
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	100	100	100
	業務進捗度（%）	実績	昭和三十九年度末実績	100	実績評価（担当）	T4
			2018年度末実績（参考）		-	
事業費予算額（千円）				6,050		
事業費決算額（千円）				6,050		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	今年度は、昭和浄水場外浸水対策計画策定業務委託を行った。今後は浸水対策工事実施設計業務委託を行い、次年度以降に浸水対策工事を行っていく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	浸水被害で浄水場等施設に機能不全が起こらないように、必要な対策を早急に、かつ計画的に行うこと。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号11 水道管路耐震化事業（第六次甲府市総合計画実施計画 事業番号 上下-6）

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	水道課	担当課長	坂本 尚弥			
経営方針	2災害に強くしなやかな水道（強靱）	施策	（2）管路・施設の更新及び耐震化の推進			
目的	管路施設の耐震性向上と、最適な水理機能、水質保持機能を維持するため、基幹管路をはじめとする管路の更新に努めます。					
事業概要	耐久性・耐震性に劣る経年管路の更新工事をはじめ、全ての管路工事において国の耐震基準を満たす耐震管を採用し耐震管率の向上を目指します。 <年間整備延長>①基幹管路：500m ②重要管路：1,000m ③水運用計画路線：1,000m ④経年管路更新：4,500m ⑤その他：10,000m					
現状と課題	平成29（2017）年度末の耐震管率は13.35%。他企業関連工事等の外的要因により経年管路の更新、災害対策管路整備、水運用計画に遅れが生じています。					
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021
	水道管路耐震化事業	全ての管路工事が対象 ・基幹管路耐震化工事 ・重要管路耐震化工事 ・水運用計画路線工事 ・経年管路更新工事 ・その他工事				
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	17,000	17,000	17,000
	単年度整備延長（m）	実績	60本の耐震化工事を完了した。 ①②災対=1,349m、③プ=3,611m ④更新=5,879m、⑤その他=5,697m	実績	16,536	実績評価（担当） T4
				2018年度末実績（参考）	15,518	
	名称	目標値に対する取組等	目標値	15.42	16.56	17.71
	耐震管率（%） ※重要業務指標	実績	民間開発工事と合わせた耐震管整備延長は19,538mとなり、耐震管率の向上を図った。	実績	15.92	実績評価（担当） T4
				2018年度末実績（参考）	14.61	
名称	目標値に対する取組等	目標値	1.15	1.15	1.15	
管路更新率（%）	実績	平成30年度末管路総延長1,459,150mに対する更新延長は17,263mとなり、管路更新率の向上を図った。	実績	1.18	実績評価（担当） T4	
			2018年度末実績（参考）	0.98		
事業費予算額（千円）				3,313,814		
事業費決算額（千円）				1,805,719		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	他企業関連工事による整備工事が減少したことで単年度整備延長の目標値に満たなかったが、耐震管による布設替えを進めたことで、耐震化率は目標を上回ることができた。今後とも、経年管路等の更新事業の拡大を図る中で耐震化を推進する。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	予算の有効活用と適切な人員配置を図る中で、基幹管路や重要管路等の更新工事を実施し、耐震化を推進すること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号 12 浄水施設等更新事業（第六次甲府市総合計画実施計画 事業番号 上下-8）

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	浄水課	担当課長	石川 泰明			
経営方針	2災害に強くしなやかな水道（強靱）	施策	（2）管路・施設の更新及び耐震化の推進			
目的	浄水施設等における機能の維持向上を図るため、老朽化した設備の更新を行い、施設等の機能維持向上を図ります。					
事業概要	平瀬、昭和浄水場及び各配水池等の老朽化設備等の更新工事を年次的に行います。 （平瀬浄水場：高圧受配電設備更新、ろ過池更生、浄水池補強防食、照明設備取替、沈澱池管廊配管取替、着水井～急速ろ過池機械電気設備更新等） （昭和浄水場：フェンス取替、取水井水位計取替等） （各配水池等：千代田ポンプ制御盤・水位計取替外）					
現状と課題	運用開始より30年以上が経過しており、各施設、設備とも更新の時期にきています。浄水処理を平常運転で行う中での更新工事実施となるため、手法や工程管理等を安定した水処理に支障をきたすことがないよう勘案する必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021
	平瀬浄水場施設更新	アセットマネジメントによる計画的な老朽施設の更新				
	昭和浄水場施設更新					
	各配水施設等更新					
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	44.00	49.00	50.00
	施設等更新の進捗率（%）	実績	実績	40.64	実績評価（担当）	T4
			2018年度末実績（参考）	7.22		
事業費予算額（千円）				1,299,181		
事業費決算額（千円）				1,166,723		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	平瀬、昭和浄水場及び配水池系の老朽化した設備等の更新工事を、アセットマネジメントに基づき予算の平準化を考慮する中で計画的に行っていく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	浄水施設等における老朽化した設備の更新を行い、施設等の機能維持の向上を図ること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満
事業評価見込 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号 13 配水施設等更新事業

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	水道課	担当課長	坂本 尚弥			
経営方針	2災害に強くしなやかな水道（強靱）	施策	（2）管路・施設の更新及び耐震化の推進			
目的	平常時及び非常時において安全で安定した給水を行うため、水道施設における耐震診断結果に基づき、耐震性の低い配水池の更新を図ります。					
事業概要	中区配水池及び高区配水池等の更新					
現状と課題	中区配水池及び高区配水池は築造から60年以上が経過しており、特に中区配水池は現在稼働している施設の中で最も古く、基幹施設として求められる耐震性能を有していないことから、早急に更新を行う必要があります。更新に当たっては、安全で安定した給水を継続するとともに、関連する送配水管の更新も視野に入れながら適切な更新方法を検討する必要があります。					
事業計画	名称	年度	2019	2020	2021	
	中区配水池更新基本・詳細設計	説明 アセットマネジメントに基づく、配水施設等更新工事(電気・計装・機械・土木)				
	中区配水池更新工事					
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	—	—	
	施設の更新率（%）	実績	—	—	実績評価（担当）	
			2018年度末実績（参考）	—	—	
	名称	目標値に対する取組等	目標値	85.08	85.08	85.08
	施設の耐震化率（%）	実績	中区配水池更新基本計画策定業務委託を発注し、令和2年8月末に完成する見込みである。	85.08	85.08	実績評価（担当）
2018年度末実績（参考）				85.08	85.08	T4
事業費予算額（千円）			20,900			
事業費決算額（千円）			—			
事業評価（担当）				B		
取組状況及び今後の展開（担当）	業務委託の成果を十分精査する中で受理した後、施設の規模、構造、建設場所等を決定し、更新工事の着手に向けた詳細設計業務委託を実施する。					
事業評価（推進委員会）				B		
推進委員会の意見等	中区配水池の更新に当たっては、災害に備えるとともに、東部方面への安定的な給水を図るため、関連する送配水管も含め、維持管理に優れた適正な施設となるように検討すること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号14 本局の庁舎改修事業

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	総務課		担当課長	功刀 辰也		
経営方針	2災害に強くしなやかな水道（強靱）		施策	（2）管路・施設の更新及び耐震化の推進		
目的	本局の庁舎の効率的・計画的な改修を行い、維持管理経費及びエネルギー使用量の削減を図るとともに、執務環境の向上を目指します。					
事業概要	老朽化が進む本局の庁舎の建築設備劣化診断の結果による「庁舎維持管理計画」を策定し、これに基づき本局の庁舎の効率的・計画的な改修を行います。					
現状と課題	現在の本局の庁舎は、竣工から38年が経過し、老朽化が進んでいることから効率的・計画的な改修が必要となっています。					
事業計画	名称	年度		2019	2020	2021
	説明	「庁舎維持管理計画」に基づき改修				
業務指標	名称	目標値に対する取組等		目標値	検討	実施
	本局の庁舎改修	実績	「庁舎維持管理計画」に基づき、2020年度予算に（1）照明設備LED化実施設計（2）便所洋式化等改修の費用を計上した。	実績	検討	実績評価（担当）
				2018年度末実績（参考）	庁舎維持管理計画策定	
事業費予算額（千円）				-		
事業費決算額（千円）				-		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	本局の庁舎の効率的・計画的な改修を行い、維持管理経費及びエネルギー使用量の削減を図っていく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	劣化度調査の結果や労働環境の改善等を考慮する中で、老朽設備等について計画的な維持修繕に努めること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価見込 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号15 企業債の適正発行と資金調達手法の検討

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	経営企画課	担当課長	小澤 昭洋				
経営方針	3将来に繋げる水道（持続）	施策	（1）経営基盤の強化				
目的	今後発行を予定する企業債を適正水準で発行することや様々な資金調達手法の検討をすることにより、投資財源の適正化を図り、将来の財政負担軽減に努めます。						
事業概要	施設の整備・更新のために必要な資金の確保に努め、適正水準で計画的な企業債の借入を行います。また、企業債だけでなく、将来の財政負担の軽減を図るため、より有利で様々な資金調達方法を検討します。						
現状と課題	第5期拡張事業完成以降は、企業債発行の抑制や繰上償還など、財務体質の改善に努めてきたことにより、全国平均と比べ給水収益に対する企業債残高の割合は大きく下回っています。今後は、老朽化した施設の更新資金の確保が必要となりますが、企業債発行については、事業量に応じた適正な水準で発行することが必要となります。						
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021	
	適正水準での企業債の発行	現状の経営状況を考慮した、適正水準での借入					
	様々な資金調達手法の調査・検討	様々な資金調達手法について調査・検討					
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	274.27 以下	274.27 以下	274.27 以下	
	給水収益に対する企業債残高の割合（%）	実績	事業量及び財政状況を勘案する中で、企業債の発行を行わなかった。	実績	60.26	実績評価 （担当）	T4
				2018年度末 実績（参考）	71.07		
事業費予算額（千円）				-			
事業費決算額（千円）				-			
事業評価（担当）					B		
取組状況及び今後の展開（担当）	資金の確保に努め、企業債だけでなく、将来の財政負担の軽減を図るため、様々な資金調達方法を検討する。						
事業評価（推進委員会）					B		
推進委員会の意見等	業務指標は良好であるが、給水収益の減少等のマイナス要因に留意し、中長期的視点で企業債について検討すること。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号16 水道料金の収納率向上、滞納整理の強化

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	営業課		担当課長	長田 和平		
経営方針	3将来に繋げる水道（持続）		施策	（1）経営基盤の強化		
目的	水道事業は水道料金収入による独立採算が求められることから、収入確保に直結する収納率の向上、滞納整理の強化を図ります。					
事業概要	滞納整理業務の強化として、一調定未納者に対して催告書の送付、電話催告及び停水執行を行い、未収金の早期回収に取り組んでいきます。水道料金収納率：現年度90.34%、過年度：99.69%の達成を目指します。					
現状と課題	人口減少等による水需要の減少傾向に伴う厳しい経営環境の中、財源確保のために収納率を向上させることは重要な課題であり、委託業者と連携を図り、未収金の縮減に努めていきます。					
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021
	水道料金の収納率向上	水道料金未納者に対する速やかな催告書送付、電話催告、停水等の滞納整理業務				
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	現年度90.34 過年度99.69	現年度90.34 過年度99.69	現年度90.34 過年度99.69
	水道料金の収納率、 現年度・過年度（%）	実績 前年度に引続き、未納者に対して、電話等による納付催告を実施した。また、納付意思が見られない場合には、給水停止処分を積極的に行い、未収金の早期回収に努めた。	実績 2018年度末 実績（参考）	現年度89.80 過年度99.84	実績評価 （担当） 現年度90.08 過年度99.82	T4
事業費予算額（千円）				-		
事業費決算額（千円）				-		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開 （担当）	未納者に対して、電話催告や現地訪問を行い、未収金の回収に努めた。今後においても継続して滞納整理業務の強化を図り、収納率の向上に努めていく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	きめ細かな電話による催告等に取り組み、滞納整理業務の強化を図り、収納率の向上に努めること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極の見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号 17 民間活力の活用推進（営業部門）

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	営業課		担当課長	長田 和平			
経営方針	3将来に繋げる水道（持続）		施策	(1) 経営基盤の強化			
目的	民間事業者の専門知識・技術・ノウハウを活用し、経営の効率化を図ります。						
事業概要	営業部門の各業務を一括して行うサービスセンター業務委託を平成26（2014）年度から開始し、2018年度で契約が満了となります。2019年度からの次期委託よりサービスセンター業務に他の委託業務等を追加し、更に効率的な事業運営に努めます。						
現状と課題	サービスセンター業務委託について、毎月開催する評価委員会の中で業務内容の審査検証を行い求めた水準を満たしていますが、業務の効率化及び更なるお客様サービスの向上を図る必要があります。						
事業計画	名称	年度		2019	2020	2021	
	説明						
	サービスセンター業務委託(2期)	窓口業務や検針業務等の包括民間委託（2019年度から2023年度まで）					
業務指標	名称	目標値に対する取組等		目標値	12	12	12
	受託事業者評価委員会開催(回)	実績	サービスセンター業務受託事業者評価委員会を毎月開催し、業務の進捗報告の中で問題点や課題について受託事業者へ指導を行い、業務水準の向上に努めた。	実績	12	実績評価(担当)	T4
				2018年度末実績(参考)	12		
	名称	目標値に対する取組等		目標値	100	100	100
業務実施基準達成率(%)	実績	サービスセンター業務の各業務については、当局が求めた水準を満たしており、予定通りの業務が行われた。	実績	100	実績評価(担当)	T4	
			2018年度末実績(参考)	100			
事業費予算額(千円)				182,414			
事業費決算額(千円)				182,414			
事業評価(担当)					B		
取組状況及び今後の展開(担当)	毎月開催する受託事業者評価委員会の中で指摘された内容について、受託者へ指導・監督を図っていく。						
事業評価(推進委員会)					B		
推進委員会の意見等	今後もサービスセンターの指導・監督を行い、更なるお客様サービスの向上に努めるとともに、業務の効率化に努めること。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号 18 民間活力の活用推進（浄水場運転管理等）

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	浄水課	担当課長	石川 泰明				
経営方針	3将来に繋げる水道（持続）	施策	（1）経営基盤の強化				
目的	事業運営の効率化や安定化を図るため、民間事業者の専門知識・技術・ノウハウを活用し、適切な評価・管理のもと平瀬浄水場運転管理等業務の民間委託を継続して行い、経営の効率化を図ります。						
事業概要	平瀬浄水場運転管理等（水質管理、水道水の製造工程から施設の維持管理、及び簡易修繕や薬品等の調達等）の包括的業務委託を推進します。						
現状と課題	「平瀬浄水場運転管理等業務委託」（第2期）の監視及び運転管理業務等が、良好に履行されました。第3期にて追加される点検業務等を確実に行うとともに、民間事業者の技術・ノウハウを活用しながら、より効果的・効率的に業務を履行していく必要があります。						
事業計画	名称	年度	2019	2020	2021		
	平瀬浄水場運転管理等業務委託（第3期）	説明	平瀬浄水場等の運転管理、施設維持管理等の包括民間委託（2019年度から2023年度まで）				
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	12	12	12	
	受託事業者評価委員会開催（回）	実績	受託事業者評価委員会を毎月開催した。	実績	12	実績評価（担当）	T4
				2018年度末実績（参考）	12		
	名称	目標値に対する取組等	目標値	100	100	100	
	業務実施基準達成率（%）	実績	全ての項目について、基準を満たしており適正と評価された。	実績	100	実績評価（担当）	T4
2018年度末実績（参考）				100			
事業費予算額（千円）			141,034				
事業費決算額（千円）			141,034				
事業評価（担当）				B			
取組状況及び今後の展開（担当）	今年度は、第3期の1年目であったが、要求水準を逸脱することなく、適切に業務が履行された。今後も継続して民間事業者の技術、ノウハウを活用し、業務の効率化を図っていく。						
事業評価（推進委員会）				B			
推進委員会の意見等	平瀬浄水場運転管理等業務の適切な評価・管理を引き続き行い、民間活力の活用を推進すること。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号19 適正な水道料金の継続的な検討

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	経営企画課	担当課長	小澤 昭洋				
経営方針	3将来に繋げる水道（持続）	施策	（1）経営基盤の強化				
目的	水道料金は、水道法第14条で「能率的な経営の下における適正な原価に照らし公正妥当なものであること」と定められており、持続可能な水道事業経営を図るための適正な水道料金の検討を継続的にを行います。						
事業概要	概ね3年ごとに水道料金の見直しを行います。料金算定期間や適正な料金の算定にあたり第三者機関である「甲府市水道料金等審議会」を設置し、水道料金の審議をいただくとともに、適正な水道料金の検討を継続的にを行います。						
現状と課題	2017年度に「甲府市水道料金等審議会」を設置し、2018年度から2020年度までを算定期間とした料金について答申をいただく中で、局内での協議・検討の上、水道料金を決定しました。 経営戦略に基づく事業内容の変更、社会経済状況が急激に変化した場合には適切な対応が必要になります。						
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021	
	水道料金水準の確認・検討	現状の水道料金が適正な水準かどうか、決算状況等に基づく確認・検討					
	水道料金等審議会の設置	概ね3年に1度、第三者機関を設置					
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	100以上	100以上	100以上	
	料金回収率（%）	実績	$\frac{\text{供給単価}}{\text{給水原価}} \times 100 = \frac{164.55}{126.02} \times 100$	実績	130.57	実績評価（担当）	T4
					2018年度末実績（参考）	125.08	
	名称	目標値に対する取組等	目標値	-	6	-	
	会議の回数（回）	実績	-	実績	-	実績評価（担当）	-
				2018年度末実績（参考）	-		
事業費予算額（千円）				-			
事業費決算額（千円）				-			
事業評価（担当）					B		
取組状況及び今後の展開（担当）	料金収入の決算額は、昨年度と比較して約7千6百万円減少していることから、事業の効率化や収納率の向上を図るとともに、水道料金等審議会を設置し適正な料金算定の検討を行っていく。						
事業評価（推進委員会）					B		
推進委員会の意見等	水道料金は、今後においても減収傾向が続くことが予想されることから、適正な料金の算定に必要な情報収集等に努めるとともに、水道料金等審議会で審議していただき、適正な水道料金の検討を行うこと。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号20 給水台帳システムの整備

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	給排水課		担当課長	遠藤 博臣			
経営方針	3将来に繋げる水道（持続）		施策	（1）経営基盤の強化			
目的	給水台帳の電子化を行い、給水台帳閲覧者への情報提供の迅速化等事務の効率化を図るとともに、地図情報管理システム（GIS）への統合について検討を行い給水業務の更なる効率化を推進します。						
事業概要	給水台帳及び私設補助管台帳について、電子化を図ります。						
現状と課題	一部の給水台帳が電子化されていないため、台帳原本の持ち出し等による破損、紛失の可能性があります。また、給水台帳閲覧者への情報提供について、迅速な対応を図ることが重要です。更に業務の効率化を図るには、地図情報管理システム（GIS）への統合について検討する必要があります。						
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021	
	随時給水台帳電子化	随時給水台帳の電子化。 既存私設補助管台帳の電子化を2019年度に完了					
	私設補助管台帳電子化						
	地図情報管理システム（GIS）への統合について検討	統合に向けた検討					
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	3,000	3,000	3,000	
	電子化件数（件）	実績	随時給水台帳の電子化を行うとともに、私設補助管台帳においては、作成した地図情報管理システムとの精査を行いながらの電子化作業であったが順調に進捗した。	実績	6,731	実績評価（担当）	T5
				2018年度末実績（参考）	7,734		
	名称	目標値に対する取組等	目標値	100.00	100.00	100.00	
	電子化率（%）	実績	随時給水台帳の電子化を行うとともに、私設補助管台帳においては、作成した地図情報管理システムとの精査を行いながらの電子化作業であったが順調に進捗した。。	実績	224.4	実績評価（担当）	T5
				2018年度末実績（参考）	77.34		
事業費予算額（千円）				—			
事業費決算額（千円）				—			
事業評価（担当）					B		
取組状況及び今後の展開（担当）	私設補助管台帳においては、作成した地図情報管理システムとの精査を行いながらの電子化作業であったが順調に進捗した。来年度には私設補助管の入力作業を完了する。また、地図情報システムとの統合の可否についても引き続き取り組んでいく。						
事業評価（推進委員会）					B		
推進委員会の意見等	私設補助管台帳の整備を今後も進めるとともに、精度の高い情報提供が図れるよう、地図情報システムとの関連性についても協議を進めること。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号21 上下水道事業アセットマネジメントシステム構築と運用

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	計画課	担当課長	小林 秀司		
経営方針	3将来に繋げる水道（持続）	施策	（1）経営基盤の強化		
目的	水道施設更新計画の対象施設である管路施設並びに浄水場及び配水施設等が保有する設備のデータベース化を図り、施設の基本情報をはじめ、調査点検結果、更新計画・履歴などの施設情報を一元的に管理することが可能なシステムを構築することにより、適正かつ効率的な事業の実施を図ります。				
事業概要	平成27・28（2015・2016）年度に策定した中長期にわたるアセットマネジメント計画を実施するため、情報のデータベース化を図るとともに、水道施設の更新計画に基づき実施される更新事業等を管理するために構築した施設設備管理システムを運用します。また、維持・点検データや施設・設備データを適切に管理するとともに、システムの見直しを随時行い、必要に応じて機能の修正・更新を図っていきます。				
現状と課題	管路施設のデータ管理については、地図情報管理システムを活用する中で進めることとし、浄水場及び配水施設のデータ管理については、施設設備管理システムで行います。更新計画や非常時における業務への活用に向け、必要なデータの整備と更新を継続して実施し、システムの機能と操作性を検証しながら、適切に運用する必要があります。				
事業計画	名称	年度	2019	2020	2021
	説明				
アセットマネジメントシステムの構築と運用	各施設データに、調査・計画等の情報を加え、施設管理や事業進捗管理ができるシステムの構築及び運用				
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	運用	運用
	アセットマネジメントシステムの構築と運用	実績 操作説明会と今後の利活用を見据えたシステム運用研修会を実施した。また、各課のシステム運用状況を確認するとともに、各課間の情報と課題の共有化を図り、早期運用定着に向け取り組んだ。	実績	運用	実績評価（担当） T4
			2018年度末実績（参考）	構築	
事業費予算額（千円）			3,410		
事業費決算額（千円）			3,410		
事業評価（担当）				B	
取組状況及び今後の展開（担当）	構築したシステムの各課における積極的活用の定着と、施設データの整備・更新体制の早期構築を目指す。また、必要に応じて改良を行い、より利便性の高いシステムの構築と適切な運用を図る。				
事業評価（推進委員会）				B	
推進委員会の意見等	浄水施設及び送配水施設の関係図書の情報化によるシステムへの取込みなど、構築したシステムの積極的な活用を図るとともに、施設の改築更新等に対応したデータ更新体制を早急に確立すること。				

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号22 効率的な事務の推進

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	全課（総務課）	担当課長	功刀 辰也			
経営方針	3将来に繋げる水道（持続）	施策	（1）経営基盤の強化			
目的	事務作業等のスリム化やペーパーレス化を推進し、消耗品費及び業務にかかる所要時間の短縮による人件費の抑制等経費の節減及び事務の効率化を図ります。					
事業概要	文書管理システムの運用について電子決裁を徹底するとともに、会議等においてタブレットやプロジェクター等の活用によりペーパーレス化を推進します。また、併せて会議時間の短縮に努めます。					
現状と課題	厳しい経営環境が見込まれている中、経営基盤の強化を図っていくため経費節減や時間の有効活用など事務の効率化を図る必要があります。					
事業計画	名称	年度	2019	2020	2021	
	説明					
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	導入	運用	運用
	タブレットの導入と運用	実績	実績	導入	実績評価（担当）	T4
	タブレット導入に向け、必要な機能を精査し、機器等の購入を行った。3月の局内対話・経営会議から運用を開始した。		2018年度末実績（参考）	—		
事業費予算額（千円）			2,860			
事業費決算額（千円）			2,838			
事業評価（担当）				B		
取組状況及び今後の展開（担当）	タブレット導入による事務の効率化が図られているか検証を行うとともに、タブレット活用の周知を行う。					
事業評価（推進委員会）				B		
推進委員会の意見等	ペーパーレス化の推進は、印刷代の削減や資料準備の負担軽減の他、検索性の向上など会議の効率化に繋がることから、今後も推進するよう検討を行うこと。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満
 事業評価見込 A：拡大、B：継続推進、C+：積極の見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号23 水道事業広域連携の推進

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	経営企画課		担当課長	小澤 昭洋		
経営方針	3将来に繋げる水道（持続）		施策	（2）広域連携の推進		
目的	将来的に経営環境が厳しくなることが見込まれることから、スケールメリットによる効率化など、経営基盤の安定化が図られるよう、事業者間の広域連携の検討を行います。					
事業概要	日本水道協会山梨県支部の峡中地域の4市（甲府市・甲斐市・中央市・南アルプス市）による情報交換会の開催及び「山梨県市町村等水道事業の広域連携等に関する検討会議」への参画を通じて広域連携について検討を行うとともに、可能なものについて事務の共同化等を推進していきます。					
現状と課題	水源確保等の歴史的経緯から、甲斐市（旧敷島町）、中央市（旧玉穂町）、昭和町を給水区域とする広域的な水道事業として運営する中、平成28年度に中央市と連絡管の使用について覚書を締結しました。また、平成30年度に日本水道協会山梨県支部の峡中地域の4市（甲府市・甲斐市・中央市・南アルプス市）で非常時応急給水に係る覚書を結びました。将来的に厳しさを増す経営環境を踏まえ、周辺事業者との広域連携に対する共通認識を深めていく必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021
	峡中地域情報交換会	年3回の甲斐市、中央市、南アルプス市との情報交換				
	山梨県市町村等水道事業の広域連携等に関する検討会議	県及び県内市町村等と現状分析、将来予測及び広域連携等についての検討会議				
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	3	3	3
	情報交換会実施回数（回）	実績 第11回会議実施（7月） ・水道法の改正に係る各事業体の対応等について	実績	1	実績評価（担当）	T1
				2018年度末実績（参考）	3	
事業費予算額（千円）				-		
事業費決算額（千円）				-		
事業評価（担当）					C-	
取組状況及び今後の展開（担当）	下半期に予定していた意見交換会は、議題や日程の調整が困難なことなどから中止となったが、引き続き、連携ができるよう情報共有に努めていく。なお、3月に予定されていた県の検討会議は、新型コロナウイルスの影響で中止となった。					
事業評価（推進委員会）					C-	
推進委員会の意見等	県の検討会議に引続き参画するとともに、情報交換会は、将来的に効果的な連携ができるよう、長期的な経営分析や施設の有効活用等について情報共有に努めること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号24 鉛製給水管対策事業（第六次甲府市総合計画実施計画 事業番号上下-8）

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	水道課・給排水課		担当課長	坂本 尚弥・遠藤 博臣			
経営方針	3将来に繋げる水道（持続）		施策	（3）有収率の向上			
目的	水道水の安全性を高めるとともに、漏水を防止し有収率の向上を図るため、鉛製給水管の早期解消に努めます。						
事業概要	公道部に残存する鉛製給水管について、配水管布設替工事及び漏水修理工事に伴う布設替を実施するとともに、平成26（2014）年度に策定した「鉛製給水管布設替基本計画」に基づき、面的整備による布設替、及び給水装置改造工事における公道部鉛製給水管の同時布設替を実施します。						
現状と課題	平成29（2017）年度末残存件数は23,694件となっており、鉛製給水管率は約28%です。解消期間をできる限り短縮するため、基本計画に基づく布設替を行うとともに、給水装置改造工事に伴う布設替を積極的に行い、布設替件数の拡大を図る必要があります。						
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021	
	鉛製給水管布設替事業	配水管布設替工事、漏水修理工事及び基本計画による面的整備工事による鉛製給水管布設替					
	給水装置工事に伴う布設替事業の検討	給水装置の改造工事申請に伴う鉛製給水管布設替					
	給水装置工事に伴う布設替事業の実施						
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	900	1,100	1,100	
	単年度布設替件数（件）	実績	配水管布設替工事に伴う布設替え280件 漏水修理工事に伴う布設替え237件 面的整備に伴う布設替え179件	実績	696	実績評価（担当）	T3
				2018年度末実績（参考）	756		
	名称	目標値に対する取組等	目標値	25.85	24.38	22.94	
	鉛製給水管率（%）	実績	平成30年度末の鉛製給水管22,938件に対して、696件の布設替えを完了した。	実績	26.19	実績評価（担当）	T4
2018年度末実績（参考）				27.20			
事業費予算額（千円）				234,350			
事業費決算額（千円）				184,479			
事業評価（担当）					C+		
取組状況及び今後の展開（担当）	昨年度に比べて、面的な布設替件数は増加したが、経年管路の更新工事等の一部が、他企業工事との発注時期の調整により翌年度へ繰越となったことから、布設替件数の合計は減少した。今後は、面的な布設替えの着実な実施と、経年管路の計画的な更新により、布設替件数の増加を図る。						
事業評価（推進委員会）					C+		
推進委員会の意見等	鉛製給水管の面的な布設替箇所を適切に選定するとともに、経年管路の更新事業等と連携を図る中で、布設替件数の増加に努めること。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号25 漏水防止対策事業

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	水道課	担当課長	坂本 尚弥				
経営方針	3 将来に繋げる水道（持続）	施策	（3）有収率の向上				
目的	漏水による経済的損失を抑制し有収率の向上を図り、安定した給水サービスを提供するとともに、貴重な水資源の有効利用を図るため、漏水防止対策の強化に努めます。						
事業概要	地上漏水の迅速な修理を行うとともに、計画的な漏水調査を実施し地下漏水の防止に努めます。また、「水道管路耐震化事業」「鉛製給水管対策事業」についても計画的に進め、漏水を未然に防止します。						
現状と課題	平成29（2017）年度末の有効率は平成28（2016）年度から1.4ポイント改善し86.20%となりましたが、水道ビジョンが掲げる目標値95%の達成に向けては、更なる対策の強化が必要です。						
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021	
	漏水調査・修理業務	漏水調査方法の見直しによる効果的な地下漏水の防止					
	漏水防止対策の見直し						
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	全戸数	全戸数	全戸数	
	漏水調査件数（件）	実績	新技術である時間積分式漏水発見器の導入により、総検針戸数134,613戸のうち特殊集団住宅を除く95,139戸の一次調査を実施し、漏水の可能性がある7,497戸の二次調査を実施した。	実績	95,139	実績評価（担当）	T4
					2018年度末実績（参考）	30,453	
	名称	目標値に対する取組等	目標値	85.45	86.02	86.59	
	有効率（%）	実績	サービスセンターと連携して新技術を導入し、効果的な漏水調査を行うことで、漏水防止対策の推進を図った。	実績	86.68	実績評価（担当）	T4
				2018年度末実績（参考）	86.32		
事業費予算額（千円）				67,906			
事業費決算額（千円）				59,057			
事業評価（担当）					B		
取組状況及び今後の展開（担当）	時間積分式漏水発見器の導入による成果を検証するとともに、調査員の技能向上のための研修を実施し、地下漏水の発見件数の増加に努める。						
事業評価（推進委員会）					B		
推進委員会の意見等	新技術の活用によって効率的かつ効果的に漏水調査を実施し、漏水の早期発見と、更なる有効率の向上を図ること。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極の見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号26 人材育成、技術・経営ノウハウの継承

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	総務課	担当課長	功刀 辰也			
経営方針	3将来に繋げる水道（持続）	施策	（4）技術・経営ノウハウの継承			
目的	「与えられる研修」と「自主的に参加する研修」の両面から職員的能力と意欲の向上を高めていきます。 また、業務管理能力・技術力の両面を強化するための職員研修の充実やマニュアルを見直し、スペシャリストの養成、技術の継承を図っていきます。					
事業概要	外部研修（研修・研究機関等への派遣研修の充実）、内部研修（職場内研修（OJT）の充実、業務上必要な資格取得の支援（自己啓発支援）、公募によるスペシャリスト養成制度の実施、出前事業の実施、マニュアルの更新・整備を推進します。					
現状と課題	今後、退職する職員数を勘案する中で、技術の継承・向上が図られる人材育成に努める必要があります。					
事業計画	名称	年度	2019	2020	2021	
	各種研修の充実・資格取得の充実	説明				
	マニュアルの更新・整備					
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	23.99	24.36	24.73
	研修時間（h） ※重要業務指標	実績	26.83	実績評価 （担当）	T5	
	外部研修は、派遣研修を中心に1689時間延べ215名の職員が受講した。 内部研修は、本庁の一般研修及び職場研修（OJT）を中心に2817時間延べ1792名が受講した。			2018年度末 実績（参考）	23.74	
事業費予算額（千円）			4,067			
事業費決算額（千円）			2,296			
事業評価（担当）				B		
取組状況及び今後の展開 （担当）	引き続き、各種研修を積極的に実施する。特に、技術・経営ノウハウの継承に関する研修に注力していく。					
事業評価（推進委員会）				B		
推進委員会の意見等	技術・経営ノウハウの継承は、今後の事業運営において重要なテーマであるため、中長期的な視点を持つ中で、研修体系を構築し、効果的な人材育成に努めること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号27 戦略的PR活動の展開

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	経営企画課	担当課長	小澤 昭洋				
経営方針	4 お客様満足度の高い水道(信頼)	施策	(1) 親しみやすく、わかりやすい情報の提供				
目的	水道事業の施策や経営状況等について広報活動を行うとともに、多様化するお客様ニーズを的確に把握し、お客様の理解を深めることで満足度の向上を図ります。						
事業概要	事業内容や経営状況を様々な媒体を活用し、積極的かつ効果的な情報提供に努め、上下水道事業への理解を深めていただくための戦略的なPR活動を展開します。						
現状と課題	各種イベント、媒体等での周知を行っていますが、お客様への十分な周知、理解に至っていないことから、今後、更なるPR活動の充実を図る必要があります。						
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021	
	広報・PR活動	市主催等の各種イベントや多様な媒体による広報・PR活動					
	親子上下水道教室	毎年8月1日の水の日に合わせて、荒川ダム、平瀬浄水場、甲府市浄化センターの見学等					
	中区配水場開放	桜の開花時期における中区配水場の施設開放（更新工事期間を除く）					
	「甲府の水」製造	ボトルドウォーター「甲府の水」の利活用					
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	16,800	16,800	16,800	
	「甲府の水」配布数（本）	実績	水道週間PR 624本 健康フェスタ 504本 食育推進全国大会 2,016本 小江戸こっこの夏祭り 1,080本 農林業まつり 100本 等	実績	25,008	実績評価 （担当）	T5
			2018年度末 実績（参考）	27,928			
事業費予算額（千円）				6,175			
事業費決算額（千円）				4,385			
事業評価（担当）					B		
取組状況及び今後の展開 （担当）	「甲府の水」が2019モンドセレクション金賞を受賞したことを活用し、戦略的な広報活動を展開した。今後も、モンドセレクションの受賞を活用し、より戦略的なPRに努めていく。						
事業評価（推進委員会）					B		
推進委員会の意見等	「甲府の水」のモンドセレクション受賞を活かしたPR活動に努めるとともに、より戦略的な広報活動を展開し水道事業の啓発等に努めること。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号28 情報共有、協働による相互理解を深めた事業運営
(広報等)

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	経営企画課	担当課長	小澤 昭洋			
経営方針	4 お客様満足度の高い水道(信頼)	施策	(1) 親しみやすく、わかりやすい情報の提供			
目的	生活に欠かせない水道水を安心して利用していただくため、お客様からの水道事業や水道水に対するご意見等を事業運営に活かしていただけるよう、情報発信・情報収集を行います。					
事業概要	ホームページを活用し、広く分かりやすい情報発信を行います。また、お客様満足度調査やモニター制度を活用し、幅広いお客様からより多くの声を聞くとともに、イベント等を通して聞き取りアンケート等を実施します。さらに、経営戦略の着実な推進を図るため、経営全般についての第三者機関の充実を図ります。					
現状と課題	局ホームページによる情報提供、お客様満足度調査、インターネットモニター等を実施しています。また、平成30（2018）年度に設置した「甲府市上下水道事業推進会議」において経営戦略の推進等に係る意見等をいただいています。水道事業に対する実感度は高いものの、様々な取り組みに対する認知度が低い状況が伺えることから、事業に関するより多くの意見を拝聴する必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021
	ホームページ情報共有	ホームページを活用した情報共有				
	インターネットモニター制度	インターネットを活用したアンケート調査の実施（年4回）				
	お客さま満足度調査	給水区域内世帯、事業所へのアンケート調査				
	第三者機関の充実	経営全般についての第三者機関の設置				
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	3	2	3
	第三者機関による会議開催数（回）	実績	3	実績評価（担当）	T4	
		甲府市上下水道事業推進会議 3回開催 第4回会議：令和元年7月 第5回会議：令和元年11月 第6回会議：令和2年2月	2018年度末実績（参考）	3		
	名称	目標値に対する取組等	目標値	4	4	4
	モニター調査回数（回）	実績	4	実績評価（担当）	T4	
		実施回数：4回 モニター：42人 第1回：水道料金・下水道使用料について(9月) 第2回：水道水の満足度と使用状況及び上下水道施設について(11月・12月) 第3回：災害対策と下水道の使用について(1月・2月) 第4回：広報活動と取り組みについて(2月・3月)	2018年度末実績（参考）	4		
名称	目標値に対する取組等	目標値	3.33	3.33	3.33	
市民実感度調査（ポイント）※重要業務指標	実績	3.42	実績評価（担当）	T4		
	令和元年度 市民実感度調査（市企画部）42施策中 1位 質問内容：「安全でおいしい水が安定的に供給されている」	2018年度末実績（参考）	3.41			
事業費予算額（千円）			4,797			
事業費決算額（千円）			2,677			
事業評価（担当）				B		
取組状況及び今後の展開（担当）	「上下水道事業推進会議」の開催を計画どおりに実施できたことから、この第三者機関の意見等について可能な限り事業に反映していく。今後の厳しくなる経営状況や課題について理解が深められるように努める。					
事業評価（推進委員会）				B		
推進委員会の意見等	「上下水道事業推進会議」での意見等については可能な限り事業に反映させるとともに、広く分かりやすい情報発信に努めること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号29 水質検査情報の公表

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	浄水課		担当課長	石川 泰明			
経営方針	4 お客様満足度の高い水道(信頼)		施策	(1) 親しみやすく、わかりやすい情報の提供			
目的	安心して水道水を使用していただくため、水質検査情報を積極的に公表し、お客様と情報の共有化及び双方向性の向上を図ります。						
事業概要	水質検査は、水道水の安全性を保証するものであり、広くお客様に安心して水道水を使用していただけるよう、水質検査情報の公表を行います。また、水質に関する疑問・問合せ等には適切に丁寧な対応をします。						
現状と課題	「お客様満足度調査」（平成28年度）において、「水道水の水質に安心している」との回答は、83.7%と高い水準ですが、甲府の水道水の水質について更にPRし、安全性の高さを知っていただき、今後も、お客様満足度が向上するよう、努める必要があります。						
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021	
	ホームページ情報発信	水質基準項目 給水12ヶ所×年4回					
	水質検査に関する意見反映	水質検査に関する意見の「水質検査計画」への反映					
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	4	4	4	
	ホームページ掲載回数	実績	各配水系統別給水栓水の水道水質基準項目の検査結果を水道局ホームページに掲載した。	実績	4	実績評価 (担当)	T4
				2018年度末 実績(参考)	4		
	名称	目標値に対する取組等	目標値	84.00	—	—	
お客様満足度調査による満足度指数(%)	実績	令和元年度「お客様満足度調査」において、「水道水の水質に安心している」との回答は、88.10%となった。	実績	88.10	実績評価 (担当)	T4	
			2018年度末 実績(参考)	—			
事業費予算額(千円)				—			
事業費決算額(千円)				—			
事業評価(担当)					B		
取組状況及び今後の展開(担当)	今後も継続して水質検査結果を上下水道局ホームページに掲載し、水道水の安全性の周知に努める。						
事業評価(推進委員会)					B		
推進委員会の意見等	安心して水道水を使用していただくために、水質検査情報を積極的に公表していくこと。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号30 顧客満足度向上事業

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	営業課	担当課長	長田 和平			
経営方針	4 お客様満足度の高い水道(信頼)	施策	(2) お客様の利便性の向上			
目的	水道料金に関する各種手続きや支払方法等におけるお客様のニーズを的確に把握、反映するとともに、その利用の促進に努め、お客様の満足度の向上を図ります。					
事業概要	利用率が低下している口座振替制度について割引制度のPR、毎月請求制度の導入の検討を行います。また、水道使用中止の手続きや水道使用開始申込書、口座振替依頼書、クレジットカード払い申込書の請求手続きの上下水道局ホームページから利用者増加へ向けPRを行っていきます。					
現状と課題	口座振替の利用率は低下していますが、クレジットカード払いの利用率は伸びています。ホームページから各種申請書をダウンロードできるようにしたことにより手続きの簡素化が図られています。また、更なるお客様満足度の向上を図るため、スマートフォンを利用したヤフーアプリ収納（令和元年9月30日からPayPayアプリ収納）を導入しました。今後も提供しているサービスのPRを行うとともに、口座振替割引サービスの効果や毎月請求制度の導入について調査・検討してまいります。					
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021
	口座振替の促進	口座振替割引制度のPRを行い利用者の増加・促進				
	クレジットカード決済の促進	クレジットカード利用者の促進				
	口座振替毎月請求制度の導入検討	口座振替毎月請求制度の導入に向けての調査・検討				
	インターネット申込の促進の検討	ホームページから各種申込・申請書の利用者増加に向けたPR方法の検討				
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	19.40	19.20	19.00
	現金納付比率（%）	実績 ホームページ等で口座振替割引制度のPRを行い、口座振替利用の促進に努めた。また、クレジットカード払いの利用率は継続して伸びている。	実績 2018年度末実績（参考）	20.48	実績評価（担当） 19.81	T4
事業費予算額（千円）				-		
事業費決算額（千円）				-		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	口座振替の利用率が低下していく中、クレジットカード払いの利用率は毎年増加傾向にある。現在提供しているサービスの効果について調査・検証し、お客様の満足度向上に努めていく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	今後においても、現在提供しているサービスの効果を検証するとともに、各種手続きや支払方法等におけるお客様ニーズを把握・反映し、お客様の満足度向上に努めること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号31 環境・エネルギー利活用事業（本局の庁舎）

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	総務課		担当課長	功刀 辰也		
経営方針	5 環境に配慮した水道(環境)		施策	(1) 環境保全への貢献		
目的	太陽光発電の利用及び庁用自動車のガソリン使用量削減による環境負荷の軽減					
事業概要	本局の庁舎に設置された太陽光発電施設の活用。庁用自動車の低排出ガス認定車（CNG・ハイブリッド・電気）の導入。					
現状と課題	太陽光発電システムを用いて局本庁舎の電力使用量の一部を賄い環境負荷の軽減を図っています。 庁用自動車については、より環境負荷の軽減を図るため、電気自動車を導入する必要があります。					
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021
	太陽光発電システム活用	本局の庁舎屋上に設置し、本局の庁舎で使用する電力の一部を賄うもの				
	低排出ガス認定車の導入	ハイブリッド車に加え庁用車に電気自動車の導入				
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	実施	実施	実施
	継続実施	実績 太陽光発電施設により30,491KWhを発電し、本局庁舎の電力使用量の約13%を賄った。電気自動車2台を6月に導入した。	実績 2018年度末実績（参考）	実施	実績評価（担当）	T4
事業費予算額（千円）				1,754		
事業費決算額（千円）				1,072		
事業評価（担当）					B	
取組状況及び今後の展開（担当）	今後とも太陽光発電施設を活用することとし、庁用自動車については電気自動車の性能及びコスト面等で検討を踏まえ、段階的・計画的に導入していく。					
事業評価（推進委員会）					B	
推進委員会の意見等	引き続き、太陽光発電施設を活用していくとともに、導入した低排出ガス認定車の運行状況等を勘案し、今後の車種選定等を考慮すること。					

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号32 水道施設を利用した再生可能エネルギー利活用事業

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	計画課・浄水課	担当課長	小林 秀司・石川 泰明				
経営方針	5 環境に配慮した水道(環境)	施策	(1) 環境保全への貢献				
目的	温室効果ガスを削減し環境負荷の軽減に貢献するため、水道施設を利用した再生可能エネルギーの利活用を推進します。						
事業概要	落差による水力エネルギーを活用した小水力発電や太陽光発電の活用に取り組みます。						
現状と課題	水道事業は、水道水を供給する過程において様々な環境負荷を与えており、公益サービスの提供者という立場から、環境保全に対する社会的責任を率先して果たすことが強く求められています。現在、山宮減圧槽施設内において小水力発電を行っています。今後は、他の水道施設についても太陽光発電や小水力発電設備の設置について検討を進め、再生可能エネルギーの利活用拡大を図る必要があります。						
事業計画	名称	年度	2019	2020	2021		
	山宮発電所小水力発電	説明	東京発電との山宮減圧槽施設内への小水力発電設備設置による小水力発電の取り組み（契約年度2009～2028）				
	昭和北方水源太陽光発電	説明	発電設備の設置・稼働				
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	1	—	—	
	新規施設設置数（箇所）	実績	太陽光発電について、関係機関等と協議し再検討を行った結果、効率性に劣る上、継続性も困難であり、また、CO2削減効果が水力発電に劣るため、当面の間見送りとし、代替策について検討を行うとした。	実績	—	実績評価（担当）	T1
				2018年度末実績（参考）	—		
	名称	目標値に対する取組等	目標値	235	394	394	
	CO2削減量（t）	実績	総発電量は、524,320kWhであり、CO2排出量に換算して248tの削減となった。	実績	248	実績評価（担当）	T4
2018年度末実績（参考）				596			
事業費予算額（千円）			120,000				
事業費決算額（千円）			—				
事業評価（担当）				C+			
取組状況及び今後の展開（担当）	CO2削減量は目標値を上回った。今後も再生可能エネルギーの利活用を推進するために、山宮減圧槽を利用した小水力発電を今後も継続していく。また、太陽光発電設備設置の見送りに伴い、小水力発電等の代替策について検討を行い、再生可能エネルギーの利活用拡大を図る。						
事業評価（推進委員会）				C+			
推進委員会の意見等	小水力発電施設の導入に当たっては、今後の主要配水施設の更新事業との調整を十分に行い、給水の安全性に影響がないよう留意すること。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

第2次戦略推進計画 進捗管理シート（最終）

水道事業

事業番号33 効率的な水運用の推進

対象：2019年度（令和元年度）

担当課	計画課・水道課・浄水課	担当課長	小林 秀司・坂本 尚弥・石川 泰明				
経営方針	5環境に配慮した水道(環境)	施策	(2) 効率的な水運用				
目的	継続的な水需要の減少により生じる浄水能力の余剰を最小限に抑えるため、最適な水道システムを構築します。						
事業概要	荒川表流水を水源とし自然流下で配水を行う平瀬系と、地下水を水源としポンプ圧送配水を行う昭和系について、施設能力を効率的に利用するための調整を行うとともに、平瀬・昭和系から中道系への給水を含め、今後の水需要に即した給水区域全体の取水・配水計画を策定し、最適な水道システムの構築による効率的な水運用を図ります。						
現状と課題	給水量の減少が継続する中で、平瀬・昭和浄水場の施設稼働率が低下していることから、水運用計画に基づく最適な水運用を進めていくために、最新の水需要予測の下で、平瀬系を主軸とした平瀬系と昭和系の取水・配水計画を策定する必要があります。また、平瀬系を主軸とすることによる昭和系の取水井戸の有効利用（取水井戸の予備化、災害時の運用等）についても検討を進めていく必要があります。また、適切な水利権使用許可について国と協議していくことが重要となります。						
事業計画	名称	説明	年度	2019	2020	2021	
	平瀬系、昭和系の取水・配水計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> ・水需要予測に基づく各水源の取水量の設定 ・中道系送水量の設定 ・昭和取水井戸の予備化方法の検討 					
	水運用計画に基づく配水管理	<ul style="list-style-type: none"> ・山宮減圧槽系幹線の運用拡大 ・和田低区系配水区域の確立 ・平瀬・昭和系からの中道系給水の拡大及び北部配水区域の統合 ・その他 					
業務指標	名称	目標値に対する取組等	目標値	策定	-	-	
	取水・配水計画策定	実績	昭和水源について取水井戸9本を予備水源とすること、昭和浄水場から中区配水池への送水を行わないこと、中道系の東部と南部に旧甲府地区から計画どおり送水することを決定する中で、荒川水利権更新の申請を行った。また、中区配水池の更新計画策定状況について確認した。	実績	検討	実績評価 (担当)	T3
				2018年度末 実績(参考)	検討		
	名称	目標値に対する取組等	目標値	46.00	46.00	46.00	
施設利用率(%)	実績	北部第一配水池への送水管布設替工事に伴って北部水源を約3か月間運転したため、平瀬系の施設利用率が下降し、昭和系と中道系は上昇した。	実績	45.54	実績評価 (担当)	T4	
			2018年度末 実績(参考)	46.52			
事業費予算額(千円)				7,000			
事業費決算額(千円)				4,620			
事業評価(担当)					B		
取組状況及び今後の展開(担当)	今後も水運用計画に基づく配水管理を行っていくとともに、既存水源を効果的に活用した平瀬系及び昭和系の取水・配水計画に基づき、最適な水道システムの構築による効率的な水運用を行っていく。						
事業評価(推進委員会)					B		
推進委員会の意見等	昭和系取水井戸の予備化に向けた導水管の耐震化や平瀬・昭和系からの中道系への送水に必要な管路増強など、決定した水運用の実現に向けて施設の整備を着実に実施していくこと。						

業務指標評価 T5：目標達成率110%以上、T4：90%以上110%未満、T3：70%以上90%未満、T2：50%以上70%未満、T1：50%未満

事業評価 A：拡大、B：継続推進、C+：積極的見直し、C-：一部改善、D+：統廃合、D-：縮小、E：休止・廃止、F：完了

甲府市上下水道事業経営戦略(水道事業) 重要業務指標(KPI 10項目) 実績評価一覧表
対象:2019年度(令和元年度)

経営方針	施策	KPI	説明	2016年度 実績値 基準値	2018年度 実績値 初年度	2019年度 目標値	備考
						実績値	
						実績評価	
1 安全でおいしい水道(安全)	(1) 水源保全の推進	水源保全活動の参加者数(人)	水源保全活動状況を表す指標(多いほどよい)	746	736	750 476 T2	○水道管理室 水保全課 第2次計画 事業No.2 ※全5回のうち3回の活動が荒天のため中止。
	(2) 水質管理の充実	平均残留塩素濃度(mg/ℓ)	水道の水の安全及び塩素臭発生に与える影響を表す指標(給水区域の末端で遊離残留塩素濃度0.1mg/ℓ以上を満たすことが必要)	0.1 ~ 0.35	0.29	0.10~0.35 0.30 T4	○水道管理室 浄水課
	(3) 給水装置等の安全管理の推進	貯水槽水道指導率(%)	私有財産である貯水槽水道への水道事業者の関与状況を表す指標(高いほどよい)	94.40	96.39	96.00 98.21 T4	○営業管理室 給排水課 第2次計画 事業No.6
2 災害に強くしなやかな水道(強靱)	(1) 危機管理対策の強化	災害対策訓練実施回数(回)	自然災害等に対する危機対応性を表す指標(多いほどよい)	8	10	8 11 T5	○全課(業務総室総務課) 第2次計画 事業No.8
	(2) 管路・施設の更新及び耐震化の推進	管路の耐震管率(%)	地震災害に対する水道管路網の安全性・信頼性を表す指標(高いほどよい)	11.99	14.61	15.42 15.92 T4	○水道管理室 水道課 第2次計画 事業No.11 総合計画 施策成果指標
3 将来に繋げる水道(持続)	(1) 経営基盤の強化	経常収支比率(%)	経常費用が経常収益によってどこまで賄われているかを表す指標(100%以上であることが必要)	129.30	128.19	100.00以上 122.14 T4	○業務総室 経営企画課 経営分析指標
	(3) 有収率の向上	有収率(%)	給水される水量がどの程度、収益につながっているかを表す指標(高いほどよい)	81.19	82.65	81.96 82.90 T4	○水道管理室 水道課 総合計画 施策成果指標
	(4) 技術・経営ノウハウの継承	研修時間(時間)	職員の資質向上のための取組状況を表す指標(高いほどよい)	22.88	23.74	23.99 26.83 T5	○業務総室 総務課 第2次計画 事業No.26
4 お客様満足度の高い	(1) 親しみやすく、わかりやすい情報提供					3.33	○業務総室 経営企画課 42項目中 第1位 質問内容「安全でおいしい水が安定的に供給されている。」
	(2) お客様の利便性の向上	水道水の安定供給についての市民実感度(ポイント)	甲府市が実施する市民実感度調査の実感度(ポイント)が高いほど満足度が高い、最高4ポイント)	3.33	3.41	3.42 T4	
5 水道環境に配慮した	(1) 環境保全への貢献	取水・浄水・配水施設の年間電力使用量(千kwh)	省エネルギー対策への取り組み度合いを表す指標(低いほどよい)	4,727	4,579	4,587 4,556 T4	○水道管理室 水道課・浄水課

指標実績評価 T5: 目標達成率110%以上、T4: 90%以上110%未満、T3: 70%以上90%未満、T2: 50%以上70%未満、T1: 50%未満

※経営方針3 将来に繋げる水道(持続)の施策(2)「広域連携の推進」及び経営方針5 環境に配慮した水道(環境)の施策(2)「効率的な水運用」については、KPIの設定なし

第2次戦略推進計画(水道事業) 予算・決算増減比較表

○収益的収支(各家庭に水道水をお届けするための経費と財源)

(税抜/単位：百万円)

区 分		2019(令和元)年度					増減理由等
		当初予算額	補正額等	最終予算額	決算額	増減 (決算-予算)	
収益的 収入	1 営業収益	4,474	0	4,474	4,398	△ 76	・料金収入の減少
	(1) 料金収入	4,411	0	4,411	4,334	△ 77	
	(2) 受託工事収益	32	0	32	35	3	
	(3) その他	31	0	31	29	△ 2	
	2 営業外収益	1,152	0	1,152	1,130	22	
	(1) 補助金	17	0	17	14	3	
	他会計補助金	17	0	17	14	3	
	その他補助金	0	0	0	0	0	
	(2) 長期前受金戻入	796	0	796	785	11	
	(3) その他	339	0	339	331	8	
収入計 (A)		5,626	0	5,626	5,528	△ 54	

(税抜/単位：百万円)

区 分		2019(令和元)年度					増減理由等
		当初予算額	補正額等	最終予算額	決算額	増減 (予算-決算)	
収益的 支出	1 営業費用	4,746	0	4,746	4,433	313	・浄水及び配水施設の 維持管理に係る委託 料、修繕費、動力費 などの減少 ・減価償却費の減少
	(1) 職員給与費	749	0	749	713	36	
	基本給	327	△ 16	311	302	9	
	退職給付費	95	15	110	110	0	
	その他	327	1	328	301	27	
	(2) 経費	1,716	0	1,716	1,492	224	
	動力費	98	0	98	94	4	
	修繕費	365	0	365	326	39	
	材料費	58	0	58	57	1	
	その他	1,195	0	1,195	1,015	180	
(3) 減価償却費	2,281	0	2,281	2,228	53		
2 営業外費用	96	0	96	93	3		
(1) 支払利息	84	0	84	84	0		
(2) その他	12	0	12	9	3		
支出計 (B)		4,842	0	4,842	4,526	316	

経常損益 (A)-(B) (C)	784	0	784	1,002	218
------------------	-----	---	-----	-------	-----

特別利益 (D)	33	0	33	61	28
特別損失 (E)	17	0	17	12	△ 5
特別損益 (D)-(E) (F)	16	0	16	49	33
当年度純利益(又は純損失) (C)+(F)	800	0	800	1,051	251

第2次戦略推進計画(水道事業) 予算・決算増減比較表

○資本的収支(水道施設を建設・改良するための経費と財源)

(税込/単位：百万円)

区 分		2019(令和元)年度					増減理由等
		当初予算額	補正額等	最終予算額	決算額	増減 (決算-予算)	
資本的 収入	1 企業債	0	0	0	0	0	他企業からの工事負担金収入の減少
	うち資本費平準化債	0	0	0	0	0	
	2 他会計出資金	0	0	0	0	0	
	3 他会計補助金	0	0	0	0	0	
	4 他会計負担金	0	0	0	0	0	
	5 他会計借入金	0	0	0	0	0	
	6 国(都道府県)補助金	0	0	0	0	0	
	7 固定資産売却代金	0	0	0	0	0	
	8 工事負担金	321	46	367	116	△ 251	
	9 その他	250	0	250	258	8	
	計 (A)	571	46	617	374	△ 243	
(A)のうち翌年度へ繰り越される支出の財源充当額 (B)	0	0	166	0	—		
純計 (A)-(B) (C)	571	46	451	374	—		

(税込/単位：百万円)

区 分		2019(令和元)年度					増減理由等	
		当初予算額	補正額等	最終予算額	決算額	翌年度繰越額		不用額
資本的 支出	1 建設改良費	4,158	1,596	5,754	3,536	1,410	808	更新工事、委託業務等に係る費用の減少
	うち職員給与費	147	0	147	126	0	21	
	2 企業債償還金	523	0	523	523	0	0	
	既往分	523	0	523	523	0	0	
	新規分	0	0	0	0	0	0	
	3 他会計長期借入返還金	0	0	0	0	0	0	
	4 他会計への支出金	400	0	400	400	0	0	
5 その他	0	0	0	0	0	0		
計 (D)	5,081	1,596	6,677	4,459	1,410	808		

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 (D)-(C) (E)	4,510	1,550	6,060	4,085
補填財源				
1 損益勘定留保資金	3,101	1,390	4,491	2,582
2 利益剰余金処分量	1,089	160	1,249	1,249
3 繰越工事資金	0		0	0
4 その他	320		320	254
計 (F)	4,510	1,550	6,060	4,085
補填財源不足額 (E)-(F)	0	0	0	0

他会計借入金残高(G)	0	0	0	0
企業債残高(H)	2,611	0	2,611	2,611

○他会計繰入金

区 分		2019(令和元)年度				
		当初予算額	補正額等	最終予算額	決算額	増減 (決算-予算)
収益的収支分		17	0	17	14	△ 3
うち基準内繰入金		17	0	17	14	△ 3
うち基準外繰入金		0	0	0	0	0
資本的収支分		0	0	0	0	0
うち基準内繰入金		0	0	0	0	0
うち基準外繰入金		0	0	0	0	0
合 計		17	0	17	14	△ 3